



## 京都ユネスコ協会 ユースセミナー

カンボジア・スタディツアー報告交流会へのお誘い

古矢柚月(学生会員)



寺子屋で子供たちが勉強をしている様子



子供病院で仲間との集合写真

第9回高校生カンボジアスタディツアーに、京都ユネスコ協会から推薦していただき、選出されて参加してきました。参加した私たちは、現地の病院への訪問や、寺子屋の子どもたちとの交流などを通じて、国際平和や教育、医療の大切さを学びました。

私は幼い頃に発展途上国で生活し、子どもたちがゴミの山で働いて家計を助ける姿を見てきました。そのため、貧困や格差についてもっと深く知りたいと思い、このツアーに参加しました。現地では、医療費を払えない家庭がその現実を隠すために「病院は怖いところ」と子どもに教えていることを知り、医療にアクセスすることの難しさを実感しました。また、寺子屋で学ぶ子どもたちの姿から、教育や医療を支えるには制度だけでなく、生活や知識の面での支援も大切だと感じました。こうした体験を通して、カンボジアでは貧困や、ポルポトといった歴史的な背景が今も格差を生み続けていること、また一方で、懸命に学ぶ姿を見て、子どもたちには未来を変える力があることを強く感じました。私は今回学んだことを将来に活かし、国連で格差の問題に取り組みたいと考えています。

当日には、報告を聞いていただいたあと、皆さんの感想や質問、そして普段の体験や考えなどもお聞きしながら、交流できることを楽しみにしています。